

平成20年度「小中高 夢のかけ橋推進事業」実施報告書

東京都立大山高等学校

全日制課程

1 計画の概要

本校は、区部で有数の広さを誇る城北中央公園に隣接して立地しており、教科「奉仕」をはじめ、様々な教育活動で同公園を活用している。さらに、本校はグラウンド、体育館、ホールともに都立高校屈指の充実した施設状況にあり、これらの施設を最大限に活用して、近隣の保育所、小・中学校と交流を推進する。〈交流団体〉板橋区立東新保育園ほか3園、板橋区立桜川小学校・桜川中学校、練馬区立開進第四中学校

2 実施内容

- (1) Jリーグ 湘南ベルマーレ 山口貴弘選手を講師として、近隣の小中学校の児童・生徒を招いてサッカー教室を開催した。指導補助には、本校サッカー部員が当たり、小中学生と交流した。
- (2) 板橋区立保育園の園児らを招待して、生徒会、吹奏楽部、和太鼓部、ダンス部などによるクリスマスコンサートを開催した。
- (3) 城北中央公園の池や芝生などの清掃活動を、本校ボランティア部が中心となり近隣の小・中学生に呼びかけて合同で実施した。また、科学部の生徒が、公園内に生息する動植物の解説を小学生向けに行った。
- (4) 板橋区立東新保育園で、2年生全員約200名が保育体験実習を行った。



3 成果と課題等

【成果】

- 同じ地域で学習していながら、交流することの少なかった小・中学生と一緒に、同じスポーツや奉仕活動に取り組むことにより、地域内の連携が急速に促進された。
- クリスマスコンサートでは、本校生徒には思いやりの姿勢が、保育園児にはお兄さん世代への憧れの気持ちがはぐくまれた。
- 本校の生徒に、自己有用感、達成感・成就感が醸成された。
- 保護者の参加が予想以上に多く、本校を近隣地域社会に理解してもらう絶好の機会となった。
- 学校全体を地域に開いていこうとする教員の姿勢が育てられてきた。

【課題】

- 学校行事を通しての交流では、行事の日程・時程調整や相互の連絡の進め方が大切である。
- 生徒自身が保育園児や小学校低学年の児童との交流に不慣れであるため、求める水準が年齢と不整合となる場合もあり、事前の準備、指導が大切である。
- 保育園児との交流は平日に行うことが多く、授業時間の確保と調整が課題である。
- 対外的な広報活動や、開催直前の参加や不参加を正確に掌握する事務局の機能が必要である。